

アルゼンチンの政治情勢（10月分）

2005年11月作成
在アルゼンチン大使館

1. 概要

23日、上院議員1／3、下院議員1／2の改選議会選挙が実施され、キルチネル大統領派陣営は、全国で約39%の票を獲得し、大きく躍進した。また、2日、コリエンテス州知事選挙が実施され、キルチネル大統領が支持した急進党候補が当選した。

外交面では、キルチネル大統領のイベロアメリカ・サミット出席のための西訪問、ベネズエラによる重製中型原子炉購入の憶測、キルチネル大統領に関する仏大使の発言及び英国外務省が発出した重に関する渡航情報を発端とした二国間の外交問題化等が関心を集めた。

2. 内政

(1) 議会選挙（上院改選議席：24、下院改選議席：127）

(イ) 23日、上院議員1／3、下院議員1／2の改選議会選挙が実施された。全24選挙区の平均開票率95%以上時点の主要選挙区の結果以下の通り（注：内務省は、選挙結果を同省ホームページ上に公開している）。なお、全国の平均投票率は約69%であった。

●ブエノスアイレス州選挙区（開票率：96.77%）

上院議員選挙（改選議席：3）

- ・勝利のための戦線（クリスティーナ筆頭候補）：46.01%（2議席）
- ・ペロン党（イルダ筆頭候補）：19.70%（1議席）

下院議員選挙（改選議席：35）

- ・勝利のための戦線（バレストリーニ筆頭候補）：43.03%（18議席）
- ・ペロン党（ビジャベルデ筆頭候補）：14.95%（6議席）
- ・共和国平等党（ライムンディ筆頭候補）：8.74%（3議席）
- ・急進党（アスコイティ筆頭候補）：8.04%（3議席）
- ・共和国提案（トネリ筆頭候補）：7.04%（3議席）
- ・連邦統一党（パティ筆頭候補）：5.92%（2議席）

●ブエノスアイレス市選挙区（開票率：99.38%）

下院議員選挙（改選議席：13）

- ・共和国提案（マクリ筆頭候補）：33.92%（6議席）
- ・共和国平等党（カリオ筆頭候補）：21.89%（4議席）
- ・勝利のための戦線（ビエルサ（現外相）筆頭候補）：20.28%（3議席）

●サンタフェ州選挙区（開票率：99.43%）

下院議員選挙（改選議席：9）

- ・市民社会革新戦線（社会党、急進党等）（ビンネル筆頭候補）：42.85%（5議席）
- ・勝利のための戦線（ロッシ筆頭候補）：33.17%（4議席）

●ラリオハ州選挙区（開票率：95.74%）

上院議員選挙（改選議席：3）

- ・勝利党（マサ（現知事）筆頭候補）：51.01%（2議席）
- ・ペロン党（メナム（元大統領）筆頭候補）：40.53%（1議席）

下院議員選挙（改選議席：2）

- ・勝利党（エレラ筆頭候補）：55.20%（1議席）
- ・ペロン党（サントンデール筆頭候補）：35.46%（1議席）

（ロ）全有権者の約37%を占めるブエノスアイレス州選挙区では、「勝利のための戦線」（クリスティーナ上院議員筆頭候補（大統領夫人））が約46%という高得票率を得て、2位の「ペロン党」（イルダ上院議員筆頭候補（ドゥアルデ前大統領夫人））に26%という大差をつけて圧勝した。

（ハ）全有権者の約10%を占めるブエノスアイレス市選挙区では、野党・中道右派の「共和国提案」（マクリ下院議員筆頭候補（変革党党首））が約34%の得票率で大勝した。

（二）全選挙区

キルチネル大統領が率いる「勝利のための戦線」は、24選挙区の内10選挙区で最多得票率を得た（但し、この他にキルチネル大統領が支持した「ペロン党」、「急進党」等が最多得票率を得た選挙区を加えると18選挙区になる）。

また、キルチネル陣営は、全国で約39%の得票率を得た。

（ホ）今次選挙で当選した候補の就任日となる12月10日以降の議会勢力は、上院（72議席）においてキルチネル派が約42議席となり、下院（257議席）においてキルチネル派が107－110議席になると見られており（注：キルチネル派議員の数については、派閥の構成が公開されているわけではないため、正確な数字を把握することは困難である）、自派閥議員の数が拡大したが、下院において単独過半数（129議席）を獲得できなかったため、今後の議会運営で他の政治勢力と交渉する必要があり、どの勢力と交渉を行うかが注目されている。

また、ブエノスアイレス市選挙区で、野党・中道右派の「共和国提案」（マクリ下院議員筆頭候補）が大勝したが、全国基盤が確立していないため、現在のところ、全国レベルでペロン党に対抗できる程の勢力にはなっていない。

（2）閣僚人事

（イ）今次議会選挙で議員に当選した3人の閣僚（ビエルサ外相、アリシア・キルチネル社会開発相、パンブーロ国防相）は、議員就任を辞退しない限り、議員就任日の12月10日までに閣僚を辞職しなければならない。

（ロ）また、この交代時期に合わせて、その他の閣僚を含む内閣改造が行われる可能性も

ある由。

(3) コリエンテス州知事選挙

(イ) 2日、コリエンテス州知事選挙が実施されて、5人の候補者が争い、キルチネル大統領及びリカルド・コロンビ現知事の支持を得たアルトゥーロ・コロンビ候補（急進党）が約60%の票を獲得して当選した。

(ロ) 同日、キルチネル大統領（与党・ペロン党）の代わりにアニバル・フェルナンデス内相が同州を訪問し、コロンビ候補の勝利を祝福した。

他方、ロサス急進党党首は、コロンビ候補に電話で勝利を祝福した。また、同党首は、ラジオのインタビューに答えて、「キルチネル大統領の支持が（今回の勝利に）資したことは確かだが、真の勝因は、急進党主導で急進党と（一部同州）ペロン党が選挙連合を組んだことであろう」と述べた。

(ハ) コロンビ新知事は、12月10日に就任の予定。

(4) ティエラデルフエゴ州知事を巡る動き

13日、ティエラデルフエゴ州議会弾劾委員会は、再びコラソ知事の職務停止処分を決定し、ココロ副知事が暫定知事に就任した。コラソ氏は、9月にも同様の処分を受けたが、その後、州最高裁が知事職復帰を認める判断を示していた。

(5) 刑務所の暴動

(イ) 15日深夜、ブエノスアイレス州マグダレナ市（同州北部に位置する）の刑務所において、囚人同士の喧嘩の後、暴動が起こり、火災が発生して、囚人32名が一酸化炭素中毒で死亡した。

(ロ) 同事件は、1990年のブエノスアイレス州オルモス市刑務所における35名の死亡事件以降、最も死亡者の多い刑務所暴動事件となった。

3. 外交

(1) イベロアメリカ・サミット

(イ) 14-15日、キルチネル大統領は、サラマンカで開催されたイベロアメリカ・サミットに出席するため西を訪問した（クリスティーナ大統領夫人、ビエルサ外相、デビード公共事業相、パンプーロ国防相等同行）。

(ロ) キルチネル大統領は、西国王主催の儀礼的行事には全て出席したが、15日は、食事が合わなかったことから来る体調不良を理由にサミットのセッションには出席せず、代わりにビエルサ外相が出席した。

(ハ) 今般のサミットで、2010年に第20回イベロアメリカ・サミットがブエノスアイレスで開催されることが決まった。同年は巫の5月革命200周年にあたる。

(二) 二国間問題

(i) スペイン

14日、キルチネル大統領は、サパテロ西首相と約15分間会談した。サパテロ首相は、西の亜に対する全面的な支持を表明すると共に、両首脳は、両国の戦略的パートナーシップに関する合意を進めていくことで合意した。同合意文書の署名は、来年の2月又は3月頃にキルチネル大統領が西を改めて訪問する際に行われる見込みである。

その他、以下の民営化企業問題に関して話し合った。

・先般、筆頭株主の仏スエズ社等の事業撤退が決定したアグアス・アルヘンティーナ社について、サパテロ首相は、西は短期間の内に解決策が見つかることを望んでいると述べた。なお、同事業には、西アグアス・デ・バルセロナ社も参加している。

・西大手旅行社マルサンス社が筆頭株主となっているアルゼンチン航空について、亜政府による決算の承認等が問題になっているが、サパテロ首相は、西政府は合理的な解決が得られるようあらゆることを行うと述べた。11月にフェルナンデス首相及びデビード公共事業相が西を訪問し、同社代表及び労組も交えて協議を行う予定である。

・デビード公共事業相は、テレフォニカ社との間で、亜事業のコンセッション契約交渉を続けている旨明らかにした。

・キルチネル大統領及びサパテロ首相は、亜政府による、西鉄道会社（RENFE等）からの中古車両購入（約670台の中古車両、約3億5千万ドル分）に関する合意文書に署名した。

(ii) ウルグアイ

14日、キルチネル大統領は、バスケス・ウルグアイ大統領と会談し、両国の間で外交問題化しているセルロース工場建設問題について話し合った（同会合には、サパテロ首相も仲介役として参加した）。会談後、バスケス大統領は、大変ポジティブな会談であり、早期に解決策が得られるであろうと述べたが、大きな進展はなかった模様。

(iii) ベネズエラ

15日、チャベス・ベネズエラ大統領は、亜、伯、ベネズエラの三国で平和的利用を目的とした原子力エネルギー開発分野での協力を進める旨発表した。一方、デビード亜公共事業相は、医療目的での原子力技術について話し合う可能性はあるが、その他の目的ではない旨強調した。

(iv) 英国

今次サミットで発出されたコミュニケの中に、マルビーナス諸島領有権問題に関して、亜と英国が交渉を再開するよう呼びかける文言が含まれた。

(2) ベネズエラ

(イ) 9日付クラリン紙は、亜の外務省高官及び科学技術関係者の話として、ベネズエラ政府が、オリノコ油田地帯に原子力発電所を建設するために、亜からの中型原子炉購入に

関心を有している旨大きく報じた。

(ロ) 9日、ビエルサ外相は、ベネズエラが重製原子炉購入に関心を有していることを認めると共に、「ベネズエラが同原子炉の購入を望むならば、我々はベネズエラが実施する国際競争入札に参加しなければならないが、我々が落札した場合には、同原子炉を売却することになるだろう。但し、その場合には、これまでと同じように責任を持って売却することとなろう」、「米国は、重の I A E A へのコミットメントを完全に理解している」等と述べた。

(3) フランス

(イ) 4日、Lott 在仏大使は、重を訪問中であった仏元企業経営者等を前に重仏二国間関係について講演し、その中で、キルチネル政権は「ポピュリスト的」で「若干68年主義者（1968年5月にパリで学生及び労働者が起こした5月暴動に参加した人々）的」態度をとっている等と述べた旨AFP通信が伝えた。

(ロ) 5日、クリスティーナ大統領夫人（上院議員）は、「仏大使は、敬意を持って重国民に接しなければならない」、「同大使が政府を侮辱するということは、重国民を侮辱しているということである」等と述べて、仏大使を非難した。

(ハ) 6日、重外務省は、同仏大使がビエルサ外相の要請に応じて重外務省を訪問し、誤った言葉を使用し、発言すべきでなかった部分があったとして、誤りを認めた等を内容とするコミュニケを発表した。

(ニ) 他方、同日、仏外務省報道官は、「同大使の発言は非公式な場でなされたものである」、「キルチネル大統領夫人が言及した重の主権に関しては、完全に尊重することは言うまでもない」等と述べた。

(4) 英国

(イ) 14日、英国外務省は、重で発生した3件の小型爆弾事件を例に挙げて、重に渡航する英国人及び重在住英国人向けに、グローバルなレベルで無差別テロの危険があるという表現を用いて注意喚起を行った。なお、本年発生した一部小型爆弾事件は、米州サミット出席のための11月3-5日のブッシュ米国大統領訪重を意識して行われたものと見られている。但し、重のテロに関する注意レベル自体は、修正されていない。

(ロ) 19日、ミレ在英国重大使は、英国外務省に対し、重の現状に即しておらず、誤った注意喚起であり、受け入れられないとして、重の不快感を示すと共に、渡航情報の修正を求めた。

(ハ) 英国外務省は、修正要求に応じる姿勢を見せていない。

(5) ウルグアイ

重の環境に影響するとして重が反対しているウルグアイのセルロース工場建設問題に関

して、ブスティ・エントレリオス州知事が、ウルグアイにおける同工場建設は何らかのインセンティブ（注：ウルグアイ側では、賄賂のことを指していると解釈された）がある旨の発言を行ったことから、30日、ウルグアイ政府が駐亜大使を本国に召還し、これに対して、亜政府も駐ウルグアイ大使を召還する措置をとり、両国間に深刻な摩擦が生じるのではないかとも思われたが、31日、バスケス・ウルグアイ大統領は、亜外務省が、ブスティ知事の発言は賄賂のことを指しているわけではない旨見解を示したことを受け入れて、とりあえず関係修復の方向に向かっている。

（6）イラン・イスラエル

27日、亜外務省は、アフマディネジャード・イラン大統領によるイスラエル非難発言（「イスラエルは地図上から消去しなければならない」等の発言）を拒否する旨のコミュニケを発出した。

（7）要人往来

（イ）来訪

10月19日 ハーダー・カナダ外務副大臣

（ロ）往訪

10月11日 フィルムス教育相の訪仏（UNESCO会合出席）

10月12－22日 ラバーニャ経済相の訪中（G20会合出席）

10月14－15日 キルチネル大統領のスペイン訪問（イベロアメリカ・サミット出席）

10月25日 ゴンサレス・ガルシア厚生相のカナダ訪問（鳥インフルエンザ国際会議出席）